

ASPIC の活動概要

1. ASP・SaaS・クラウドの認知度の向上

- ① フォーラム(7回)、セミナー(31回)の開催とASP・SaaSクラウド白書(4冊)、ASP構築ガイド等、刊行物の発行等を行った。「所有から利用」につながるASP・SaaSクラウドの認知を図った。
- ② ASP・SaaSクラウドの体系図の策定を行った。
等の活動により、「所有から利用」に繋がるASP・SaaSクラウドの認知度の向上を図った。

2. ASP・SaaS・クラウドの市場の創成・拡大

- ① ASPICのクラウド研究会で新たなサービス、技術への共通課題事例の抽出を行い、会員ビジネスへのフィードバックを行うと共に、研究成果を国、自治体の政策やクラウドの導入ガイドライン等への提案を行った。
- ② 国の進めるクラウド関連の委員会への参画
総務省 情報通信審議会への参画
総務省、経済産業省「クラウドサービスの安全性評価に関する検討会」への参画
等の活動により、市場の創成・拡大を行った。

3. クラウドサービスの安心安全の推進

- ① 総務省とASPIC合同の「ASP・SaaSクラウド普及促進協議会」並びに総務省と連携した「データセンター促進協議会」を立ち上げた。
- ② 協議会の委員会(28回開催)で大学、クラウド事業者、有識者等の参画を得て
・クラウド事業者向け、クラウド利用者向けにクラウド共通分野／医療、自治体等の分野毎の28のガイドライン・情報開示指針を策定した。
- ③ クラウドサービス情報開示指針を策定し、クラウドサービス情報開示認定制度の検討及びASP・SaaS、医療情報ASP・SaaS、特定個人情報ASP・SaaS、ASP・SaaS(IoTクラウドサービス)、IaaS・PaaS、IaaS・PaaS(IoTクラウドサービス)、データセンターの7制度を立ち上げた。これまでに認定されたサービスの総数は259サービス、177事業者に上る。
- ③ これらにより、1)クラウドサービスの安心・安全な提供に寄与し、2)ガイドラインにより医療情報が外部保存が可能となり、市場拡大が図れ、3)情報セキュリティ対策ガイドラインに準じたクラウドサービス情報開示認定制度の立ち上げ等により、安心・安全なクラウドサービスの推進を行った。
- ⑤ これらの活動に対して、2008年にASPICが団体として(ASP・SaaSの利活用、情報開示指針の策定並びにASP・SaaSの普及促進策で情報通信の発展に多大に貢献)、2012年に河合会長が個人として(ガイドラインの策定並びに情報通信の利活用の推進)「情報通信月間 総務大臣表彰」を受賞した。

4. クラウド事業者へのビジネス支援

- ① ASPIC IoT・AI・クラウドアワードの開催(13年間で1200エントリー、480サービス表彰、最優秀賞は総務大臣表彰)
- ② 分野別クラウド研究会(年間24回、毎年700～800人が参加)
- ③ クラウド関連の情報提供(年間94回)
- ④ クラウドビジネス交流会、会員交流会等を行いクラウド事業者のビジネス支援を行った。
等の活動により、クラウド事業者のビジネス推進・拡大に貢献した。

5. クラウド利用者向けのクラウドサービス紹介事業

ASPICのこれまでの知見などから利用者に対しクラウドサービスの紹介を行うことにより、利用者増、市場の拡大を推進し、クラウド事業者のビジネスを支援した。

6. IoT、AI、クラウドサービスの市場の創造

①IoT クラウドサービスのリスク対応方針の策定、IoT クラウドサービスの情報開示指針の策定、IoT クラウドサービスの情報開示認定制度の立ち上げを行った。

②会員企業と共同で、IoT・AIを駆使した認知症対応型総務省実証事業、ビッグデータ活用による認知症対応型 IoT サービス総務省実装事業に応募し、IoT、AIによる認知症患者のBPSDの発症を削減する社会的な課題に取り組んだ。

等の活動により、IoT、AIクラウドサービス市場の創造推進に貢献した。

以上